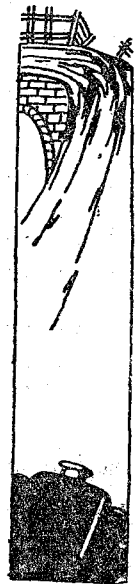




論 説



農村と道路問題

藤 原 俊 雄

農村と道路の問題は、行詰れる地方經濟の復活に甚だ重大な關係を有する事柄であつて、是非地方農村關係の道路は、今日の文化に適する程度に修築されて、農村復興に資する處がなければならぬであらう。然るに、農村民生活の程度が低い爲か、或は國民全體の生活程度が低い爲か、今日の農民が、經濟的に行詰れる所以のものは、彼等が贅澤になつたからだとか、文化生活を見習はうとしてゐるからであるとか云ふ攻撃が多いことを思ふ時、若し今日の農村に道路改築の必要を提唱するならば、恐らくは都人士の肯定を得られないであらうことを恐るゝと同時に、又農村住民に於ても、之を利用する經濟數理を合點しないであらうと察せられるのである。

然しながら、國開けて河川の堤防が修築せられ、港灣の利便が増進することに因つて、國際交通が盛になり、貿易が進み、隨つて文化の進歩を見ると、同じ様に、農村道路の改築と云ふことも、必ず行はれる

時が來て、之が農村經濟の利益に合致する様利用せらるゝ迄國民の進歩を見ねばならぬ。是れ即ち人類の進歩であつて、文化生活の慾望が士農工商に迄及び、一般産業の進む所以であり、それは社會生活の究極にして最大なる目的であらねばならぬ。

我國と歐米の農村

我國の農村と歐米の夫れとを比較すれば、實に雲泥の差がある。世界の農村中、その美しさに於て誇るに足るのは英國の農村である。これは、英國の田舎には、貴族や富豪が隱退してゐて、三四世紀以前から蓄積した彼等の富の結果であらうと思はれるが、若し我國民の如く、農村にバラツク式洋風家屋でも見ると過分の贅澤であるかの様に思ふ者は、恐らく肝を潰すであらう程英國の農村は立派である。嘗て筆者は、ロンドンから、バーミングハムへ、バーミングハムから、ウェールズへ自動車飛ばしたことがあるが、所謂幹線道路の全部悉く舗装せられてゐて、辻々には自動車に對する注意の掲示板が掲げられ、又五哩八哩の距離に於ては、大英國自動車俱樂部の派出員が、自動車或はオートバイで巡視してゐるのを見受けた。何故かと訊けば、それは一般自動車及び俱樂部員の自動車に事故の生じた時に救助應援をしたり、或は使ひ走りをする爲であるとのことであつた。沿道の修築は頗る立派に出來てゐて、我國の農村ならば、恰も路畔の鱸の棲家となつてゐる様な小溝の流も、道路側丈は悉くコンクリート工事が施してあると云ふ有様で、英國では丸で鱸や鰻や鮒がコンクリート造りの永

久防火建築の中に住んでゐるのではないかと思はせられるのである。佛蘭西や白耳義や獨逸等の田舎に行つて見ると、それは勿論英國に及ばざること遠しではあるが、木材が少いことや氣候の關係等もあり、且つは建築技術や美術工藝の發達した永い歴史を有する國柄だけに、農民の多くは石造家屋に住んでゐる。割合から云へば、獨逸は稍木造バラック式のものが多い様であるが、白耳義や佛蘭西で戰禍に罹つた農村部落を見て驚いたことは、其の被害の跡は丁度我國に於ける震災後の銀座の一角を見る様な感じで、運ぶにも片附けるにも、戰禍に罹つた農村部落は悉く石と煉瓦を積んでゐる有様であつた。我國の如く、世界稀有の木材國の住民にあつては、壁の厚さ二尺五寸と云つた様な、石造の農民住宅の存在は全く驚異であらう。然し、我國に於ても、都會の進歩に連れて、農村も亦斯様に進歩すべきは理の正に當然なことである。之を國民が、我々の若い時には百姓は麥飯と澤庵の外は食はなかつたものである。百姓が洋服を着る様なことでは經濟がとれぬ。などと云ふ様では、到底國民生活の向上を望むことは出来ぬ。況んや道路の改修等は夢見することも出来まい。

歐米では農村に立入る處の間道的道路、所謂村道と云ふ様な部落街道でさへ、自動車の通はぬものはない迄に發達を遂げてゐるのである。

産業、道路を拓くか

道路が産業を拓くか、産業が道路を拓くかと云ふのが、問題の境目であつて、何れが動機となるにし

ても兎に角産業が開發せられねばならぬので、儲けてから後に消費するか、儲ける爲に先以て消費するか、と云ふ前後があるきりで、國力を増進し、國民の生活を向上することが、文化の本旨であるならば、今日の我國に於ける農村にあつては、苟しくも部落をなしてゐる村邑に對しては、自動車交通の出来る様施設することが甚だ必要である。何故ならば、茲に假に人口二百五十を擁する村落があつて、その村に於ける一年の米作が千八百俵の收穫を見るとして、老弱男女を平均して一人當り、一日四合の米を食するとすれば一ヶ年間、九百俵になるから、残りの九百俵を市場に出す勘定になるが、それを大八車で三四俵づゝ運んだり、或は天秤捧の前後に一俵宛振り分けて擔いだりすると、三四百回運ばねばならぬが、若し之を自動車で、一回二十俵以上を運べば、四十回前後で運び終るのである。自分の勞役に就ては、賃銀計算等を頭に置かぬ日本の農民も、今日迄はこれに安んじてゐたが、此の金利の高い、借金の多い農民に、經濟生活を誘導せねばならぬとすれば、斯うした事柄は、須らく採算的に考慮すべき問題である。

米國の鐵道王、ヒル氏が、日本は道路の不完備な爲に、一人頭一日八錢の損失をしてゐると云つた理由も、或は此の邊に存するのではあるまいか。況んや農村に於ては、米ばかりでなく、桑葉の運搬や、繭の輸送や、野菜の積出し等があるから、良い道路が拓けて運搬經濟が採れるなら、新しい農産物の研究や、植附も出来るし、又採算的に之を賣り付ける方法も生じ、従つて都人士も、廉價にして新鮮な農作物の供給を受け得るのである。かゝる意味に於て、農村道路の開発は、忽かせにすべからざる問題であ

らうと思はれる。

本年度の道路工事

政府は地方民救済の目的で、公債を募集し、主として道路工事をなす爲に、一億七千萬圓の豫算を編成して、議會を通過し、之を各府縣に分配して、尙地方廳は六千萬圓の地方負擔を承認し、主として國道工事に着手することゝなつた。而して向ふ三年間の繼續事業として、七億圓位迄の道路修築が出来ると云ふ方針が確立されたけれども、若し好景氣が來たならば、恐らく救済事業としては繼續不可能なる意味が存在してゐるものであるし、各府縣割當の道路は主要都市連絡の道路であるが爲所謂農村道路として此處に論ぜんとする目的に當るものではない。それ故に都市生活者は便利を得るが、農村の大八車か自轉車、若しくは徒歩でなければ這入れぬ所は、其儘にうつちやられるであらう。誠に地方開發としては資する處少なく、唯都市に出易くなるだけで、却つて種々風教上の弊害を伴ひ易い様な結果になりはせぬかを慮るのである。

而して地方農民が、彼等が現在救済を要する様な立場にあると云ふ意味に於て、都會生活者の一部から、輕侮の念を以て見られ、彼等今日の窮狀は世界經濟の壓迫よりも、凡ゆる他の原因よりも、彼等の贅澤が招いたのであると云ふ風に考へられ、明治三十年前後にあつては、三千六百萬圓しか使はなかつた金肥を、今日では三億二千萬圓も使ふ様になり、贅澤を好んで、樂をして金を儲けようとする精神

が旺盛してゐるから、農村が困るのであるとの議論が起つて、農村經濟に關しては、中央爲政者にも、往々認識不足の點があり、常に接觸してその生活狀態を知悉せる都會生活者本位に事が企てられ易い傾きがあつて、農村救濟、地方開拓の設備等は、兎角間接的になりたがると云ふのは、聊か物足らぬ感なきを得ないのである。

今 後 の 農 業

今後の農業は、都人士の生活上と共に、全然その建前を變更して行かねばならぬのである。例へば昔の農民は、米を作り麥を植え、大根や牛蒡を蒔いて、少量の棉を栽培し、之によつて手織木綿を作製するのが農業であつたのであるが、今日では棉は全然作らないし都會に送り出す便のない地方では、野菜類も自家用以外には之を作り得ない狀態であり、それ等に依つて収入を計ることが出来ぬから、漸々外部の刺戟と奨励に動かされ、果樹の栽培が興つて來る、牛を飼つて牛乳を搾る、或はバタを製する、蠶蠶養鶏が盛になると云つた調子で、一方米も六千五百万石位の需要は必須のことであるから、之も相當奨励せられてゐるが、米は年々六千萬石を産し、平均一石二十五圓に賣れるとしても、十五億圓しかないのである。處が蠶業や養鶏や、果物や茶や小麥等による收益を計上すれば、優に米の價の倍額に上るのであるから、米國や印度に於て棉の栽培が盛になり、英國で紡績機械が發明せられて、紡績業では世界有數の日本となり、肉食が流行して、衣食住共に國民の生活が歐米人のそれに近くなつて

來た現代にあつては、農村も時代の推移を十分洞察して、農産の上に社會の要求を受け入れる様、努力すると同時に、爲政者の側に立つ人々も、一般都人士も、農村の開發を授ける心組で、農村の道路を拓いて交通運輸の便を一層容易ならしめることに思を致すべきである。

然るに論者は、往々五十年前のことを考へ合せて、百姓が贅澤になつたと云ふが、我輩をして云はしむれば、農民の生活も亦都人士のそれに連れて向上せねばならぬので、例へば、養鶏を副業としてゐる農民が、卵一貫目が一圓二三十錢にしか賣れぬから、養鶏が引合はぬと云ふが、實際に若し農民自身が、二日に一個づゝの卵を食し、一ヶ月に一羽の鶏を食卓に上せば、需要供給の關係から、直ぐ價格は調節されるのに、中々地方民は卵や鶏など食はぬと云ふ状態で、歐米のそれに比すれば、てんで生活程度が問題にならぬと云ふことから、引いて事業が振はず、産業に新趣味が起らぬ結果になるのである。

結 論

かゝる状態に於て農村を開發すると共に、農民自身が、世界的に均衡の得られる様な、國際的農業觀念の養成に努めねばならぬ。從來國際市場では、生糸だけが我國の農産であるかの如き感があつたが、蠶業は日本の天恵であるのだから、之に加へて、養鶏では英米の市場を眼指し、牛を飼養して牛酪乾酪を造つて、デシマークの主要貿易品と競争することを考へ、養豚によつて、シカゴ、カンザスの畜類相場を動かすと云ふ様な氣概を持たせると云ふことが、我日本國民を國際國民として立たせる上に甚

だ必要である。

それにつけても、農民に非常な高金利の短期貸付をして、本業は子供や女手に任せて、一家の主たる者は借金の申譯と金策の爲の奔命に疲れさせられてゐると云ふ現状は、本業を不振に陥しいれてゐる譯で、況んや道路の修築等は思ひも寄らぬと云つた結果に導くものであるから、農村借金の如きは、宜しく向ふ五ヶ年位支拂猶豫を承認して、低金利に之を乗替へさせ、更に五ヶ年賦位に改めるならば、農民が救はれると同時に、債權者はその債權を確實にし得る一石二鳥の方法で、それに加へて道路の修築をもなせば、現在の悲惨な農民が一轉して國際農民に進化し、嘗ては米より外に農産はないやうに思つてゐたのが、現在では茶も生糸も國際市場に送り出す迄になつた如く、聽ては果物や果物の罐詰や、バターやチーズや、鶏卵や鶏肉等が盛に國の富を作る根底をなす様に進んで來るであらう。さうなれば、何處かの地方中小都市中に、世界有數の屠場も出來よう。斯くして世界に東西洋の市場が相呼應する様になれば、農民の上には輝かしい生活が惠まれるであらう。

而して斯くする爲には、彼等に交通の便が與へられ、彼等が如何に國際的市場に立つてゐるか、と云ふことを自覺せしめる様にして、その生活上の道を拓く必要があるのである。